

## 第3四半期累計実績

### ● 米州・EMEAが好調に推移するも、中国の市場環境の変化が継続しており、減収減益

前年同期比 売上高：98.4%、営業利益：72.3%、四半期利益\*：79.1%

\*親会社の所有者に帰属する四半期利益

#### 売上高

- 米州・EMEAは、ヘマトロジー・尿分野を中心に伸長
- 中国政府主導の医療費抑制政策の影響が継続。必要最小限の原則および代理店の在庫調整などにより、中国の売上は現地通貨ベースで前年同期比81.0%

#### 営業利益

- 販管費の適正化を進めるも、米国追加関税、売上減少による粗利減少などにより、減益

#### 四半期利益

- 為替影響およびライフサイエンスのピボットによる関係会社清算に伴う税効果などにより、計画通り(進捗率74.9%)

5

**飯塚**：皆様こんにちは、飯塚でございます。それではこれより2026年3月期第3四半期決算についてご説明させていただきます。

スライドの5ページ、エグゼクティブサマリーです。第3四半期累計では米州とEMEA地域につきましては好調に推移しておりますが、残念ながら中国における市場環境変化が継続、一部拡大している影響を受けまして、減収減益となりました。

前年同期比で売上高は98.4%、営業利益が72.3%、四半期利益が79.1%と、特に利益面でのマイナスが大きくなっております。中国における医療費抑制政策による必要最小限の原則、これに伴う検査数の減少や、代理店の厳しい経営環境に伴う在庫調整などが継続しておりまして、中国の売上高は現地通貨ベースで前年同期比81%と低調になりました。

売上減少に伴う粗利の減少やプロダクトミックスの変化、またご案内の通り米国追加関税の影響なども受けまして、第3四半期の原価率が悪化し、販管費の適正化を進めてはおりますが、営業利益は物足りない結果となりました。

## ● 売上高5,000億円 (△100億円)、営業利益620億円 (△140億円) へ下方修正

### 売上高

- 中国の市場環境変化の影響が想定以上に拡大したことに加え、日本でもメディカルロボット事業の計画を修正、その他地域の状況を踏まえ、下方修正

### 営業利益

- 減収による粗利減やプロダクトミックスなどによる原価率の悪化を見込み、下方修正

6

スライド6、こちらは第3四半期の結果と、さらには残り2カ月弱でございますが、こういった状況を踏まえまして、通期業績予想を売上高5,000億円、営業利益を620億円に下方修正させていただきたいと思っております。

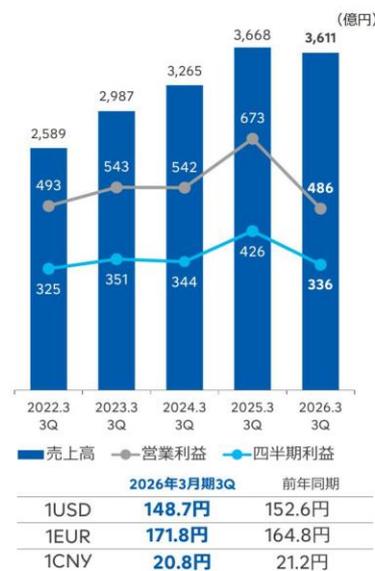
従いまして、11月時点での予測からは、売上高は100億円、営業利益は140億円減少する予想となっております。この主な要因といたしましては後ほど詳しくご説明させていただきますが、主には中国における検査数減少、代理店在庫調整、それから日本のメディカルロボット事業計画の修正と、あるいはインドにおける大型入札案件の期ずれ等もございまして、そういった状況を考慮した内容となっております。

## 決算総括（対前年）



(億円)	2026年3月期3Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	3,611.6	100%	3,668.6	100%	98.4%
売上原価	1,735.3	48.0%	1,680.5	45.8%	103.3%
販売費及び一般管理費	1,202.0	33.3%	1,099.7	30.0%	109.3%
研究開発費	204.4	5.7%	225.4	6.1%	90.7%
その他の営業損益	16.7	0.5%	10.4	0.3%	159.8%
営業利益	486.5	13.5%	673.4	18.4%	72.3%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	336.9	9.3%	426.1	11.6%	79.1%

- **売上高**：主に中国の市場環境変化の影響により、減収
- **営業利益**：売上減少による粗利減少や米国追加関税の影響などにより、減益
  - ✓ 為替の影響 売上高 △0.9 億円、販管費 +5.0 億円、営業利益 △26.8 億円
  - ✓ 前年同期為替レート適用の場合 売上高 98.5%、販管費 108.9%、営業利益 76.2%
- **四半期利益**：△20.9%の減益も概ね計画通り（進捗率74.9%）
  - ✓ 為替差損益 20.1億円（前年同期比+44.1億円）
  - ✓ ライフサイエンスのピボットによる関係会社清算に伴う税効果の影響 +25.8億円

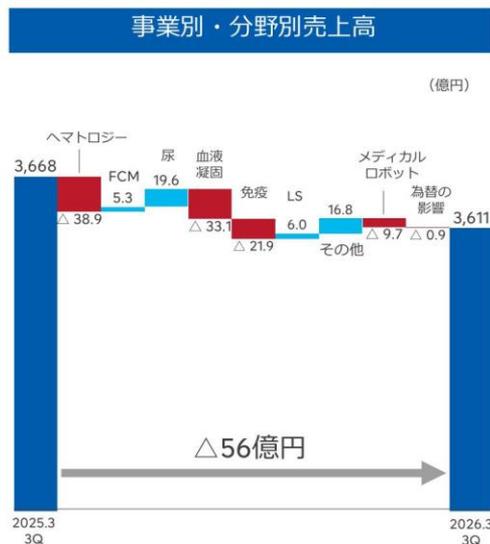


8

スライド 8 ページ、決算総括でございます。売上高・営業利益の結果は先ほどご説明した通りですが、為替の影響が右下に記載しております通り前年同期比で US ドルは円高、それからユーロは円安、中国元は円高と混合された状態になっておりまして、売上高につきましては 0.9 億円のマイナスインパクト、それから販管費につきましては 5 億円のプラス、営業利益は 26.8 億円のマイナス要因となっております、特にこの為替による影響で営業利益の方にマイナス影響がでております。

それから四半期利益でございますけれども、こちらは為替差益が 20 億円、関係会社清算に伴う税効果で 25.8 億円のプラス効果が出ておりまして、対前年ではマイナス 20.9%ですが、計画通り推移している状況です。こちらはライフサイエンスにおける事業ポートフォリオの見直し、ピボットによる結果が出始めているということでございます。

## 売上高の増減要因（事業別・分野別）



(億円)	2026年3月期3Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	3,611.6	100.0%	98.4%	98.5%
ヘマトロジー	2,169.9	60.1%	98.1%	98.2%
FCM	29.4	0.8%	123.5%	122.3%
尿	320.3	8.9%	106.0%	106.5%
血液凝固	537.6	14.9%	93.9%	94.2%
免疫	159.5	4.4%	86.9%	88.0%
生化学	21.3	0.6%	80.4%	81.6%
ライフサイエンス	170.0	4.7%	106.9%	103.8%
その他	180.3	5.0%	116.0%	113.9%
ダイアグノスティクス事業	3,588.5	99.4%	98.7%	98.7%
メディカルロボット事業	23.1	0.6%	70.3%	70.3%

9

スライド 9 ページ、事業別・分野別の売上増減要因です。ダイアグノスティクス事業における分野別では、ご覧の通り尿分野などで伸長しておりますが、ヘマトロジー・血液凝固、それから免疫分野で減収となっております。これは繰り返しになりますが、主に中国の医療費抑制政策の影響、それから第 1 四半期でご記憶あるかと思えますけれども日本における特殊要因、こういったものによるものでございます。

メディカルロボット事業ですが、ご案内の通り、国内の医療環境における財政状況が厳しい影響を受けておりまして、前年同期比で 70%となっております。

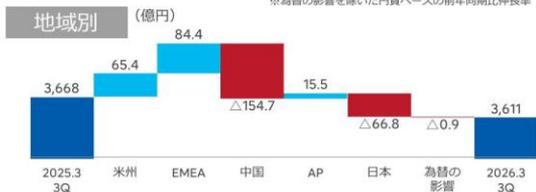
## 売上高の増減要因（地域別・品目別）



米州、EMEA、APは堅調に伸長も、日本・中国の影響により減収

(億円)	2026年3月期3Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	3,611.6	100.0%	98.4%	98.5% <sup>(注)</sup>
米州	1,008.2	27.9%	104.6%	107.1%
EMEA	1,149.0	31.8%	111.7%	107.0%
中国	655.3	18.2%	79.9%	81.0%
AP	393.8	10.9%	102.6%	104.1% <sup>(注)</sup>
日本	405.0	11.2%	85.8%	-
機器	705.2	19.5%	99.0%	98.5% <sup>(注)</sup>
試薬	2,258.6	62.5%	98.6%	98.7% <sup>(注)</sup>
サービス	509.7	14.1%	100.8%	101.4% <sup>(注)</sup>
その他	138.0	3.8%	86.7%	85.7% <sup>(注)</sup>

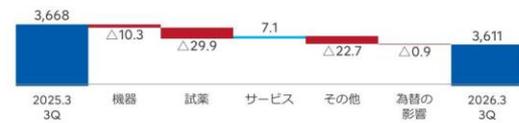
※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



### 地域別の主な増減要因 \*現地通貨ベース

米州	・北米は上期に続き好調を維持、中南米も2Q以降高い伸長を継続し、 <b>増収</b> 。3Q単では対前年+9.4%と高伸長を達成
EMEA	・主要国および東欧においてヘマトロジー・尿分野が好調に推移し中東の減収を補い、 <b>増収</b> 。3Q単では対前年+12.6%と大幅伸長
中国	・医療費抑制政策（必要最小限の原則など）の影響が拡大、代理店の経営悪化・買い控えによる在庫調整も拡大し、 <b>減収</b>
AP	・インドでの大型入札案件の期ずれが発生するも、その他の国・地域が伸長し、 <b>増収</b>
日本	・前年度のヘマトロジー機器好調の反動や特殊要因の影響が残り、 <b>減収</b>

### 品目別 (億円)



10

スライドの10ページ、地域別・品目別の状況です。各地域の詳細は次ページ以降でご説明させていただきますが、米州やEMEA地域は非常に好調に推移しておりまして、3Q単ではそれぞれ現地通貨ベースで米州はプラス9.4%、それからEMEAはプラス12.6%と非常に好調な結果となっております。

中国につきましては対前年同期比で19%マイナス、日本は昨年度からの反動もございまして14.2%のマイナスになりました。AP地域につきましては対前年同期比でプラス4.1%と増収ではございますが、インドでの大型入札案件の期ずれ等が発生したことにより、期待値には少し届かない結果となっております。

なお、中国を除くと、ご参考までに3Q累計で103.8%、3Q単では109.8%となっており、増収となります。ちなみに中国に加えて特殊要因があった日本を除いた場合で見ますと、3Q累計では107.3%、3Q単では114.1%ということで好調かと思えます。

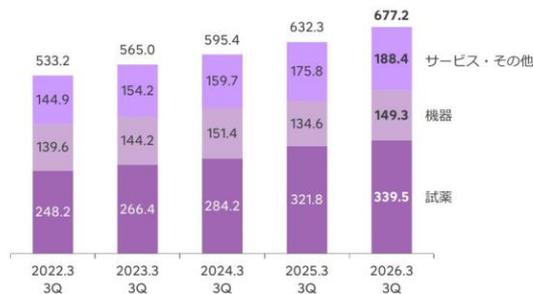
## 米州（地域別）



(Million USD)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>677.2</b>	632.3	<b>107.1%</b>	104.6%
機器	<b>149.3</b>	134.6	<b>110.9%</b>	108.4%
試薬	<b>339.5</b>	321.8	<b>105.5%</b>	103.0%
サービス・その他	<b>188.4</b>	175.8	<b>107.1%</b>	104.6%

北米は上期に続き好調を維持、中南米も2Q以降高い伸長を継続し、増収。3Q単では対前年+9.4%と高伸長を達成

売上高推移 (Million USD)



### ● 機器

- ✓ 設置が順調に進み、ヘマトロジー・尿分野が好調に推移した他、血液凝固分野も伸長。
- ✓ 特に尿分野は大規模施設への設置も進み、さらなる伸長を見込む

### ● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿分野が順調に推移し、増収
- ✓ アミロイドβ検査試薬も堅調に推移 (売上高6.1MUSD、対前年+24.9%)
- ✓ 血液凝固分野は、機器の伸長に伴い、今後試薬の増収を見込む

11

スライドの11ページ、米州地域です。北米、中南米ともに好調に推移しておりまして、3Q単ではプラス9.4%とダブルデジットに近い伸長でございました。北米は対前年同期比でプラス5.8%、中南米はブラジルでのロシュ社向け売りが少し弱くプラス5.3%でございましたが、その他中南米はプラス18.9%ということで非常に大幅に伸長してございます。

なお米国での機器設置で、第2四半期でもご説明しましたが、今期におきましても同様に順調に進捗しておりまして、ヘマトロジー、尿分野において機器・試薬共に伸長しております。また、アミロイドβ試薬も堅調に推移してございまして、特に期待しております血液凝固分野は新製品投入がスタートし、機器先行ではありますが徐々に伸びてきておる状況ですので、今後につきましては試薬の増収を期待しております。

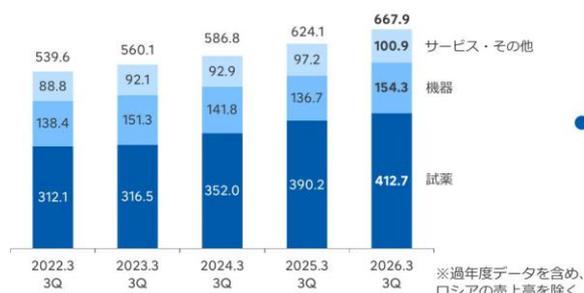
## EMEA（地域別）



(Million EUR)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>667.9</b>	624.1	<b>107.0%</b>	111.7%
機器	<b>154.3</b>	136.7	<b>112.9%</b>	118.1%
試薬	<b>412.7</b>	390.2	<b>105.8%</b>	110.3%
サービス・その他	<b>100.9</b>	97.2	<b>103.8%</b>	108.4%

主要国および東欧においてヘマトロジー・尿分野が好調に推移し、増収。3Q単では対前年+12.6%と大幅伸長

売上高推移 (Million EUR)



### ● 機器

- ✓ 直販体制効果によりイタリアでヘマトロジー・尿分野が好調に推移
- ✓ チェコやドイツなどでXR™シリーズが伸長
- ✓ 血液凝固分野は、ドイツに加え、ハンガリー、チェコなどで大型案件を獲得、今後の売上に貢献見込み

### ● 試薬

- ✓ トルコ、サウジアラビアで減収も、主要国が好調に推移し、全分野で伸長
- ✓ 血液凝固分野は機器稼働台数の増加に伴い、ドイツ、エジプトなどで伸長

12

スライドの 12 ページ、EMEA 地域になります。EMEA 地域も順調に推移しておりまして、サウジアラビアやトルコ、それから中東の一部で地政学的影響を受けているところもございますが、試薬中心に好調に推移しておりまして、3Q 単ではプラス 12.6%と、ダブルデジットで伸長しております。

特に直販効果が出ているイタリアでは 3Q 累計の対前年同期比プラス 12.7%、リージョナルヘッドクォーターの足元でございますがドイツでも 3Q 累計でプラス 19%と大きく伸長しています。血液凝固分野も好調に推移しておりまして、ドイツでの大型案件で機器が 40 台ございますが、そういった大型案件の獲得ですとか、それから東ヨーロッパの方はハンガリーですとかチェコ、こういった国々においても機器売りが先行した業績、実績を上げておりますので、今後の試薬売りが期待できます。

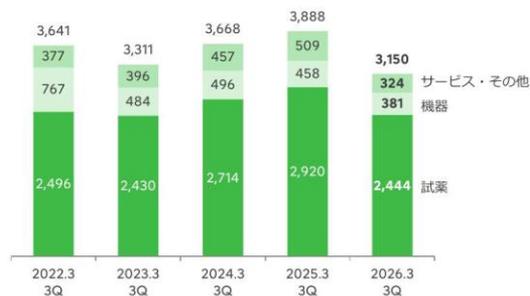
一方で、一部計画に届いていない部分もございますが、今後対応していきたいと考えております。

## 中国（地域別）



(Million CNY)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	3,150.7	3,888.6	81.0%	79.9%
機器	381.8	458.9	83.2%	82.4%
試薬	2,444.3	2,920.4	83.7%	82.4%
サービス・その他	324.5	509.2	63.7%	63.1%

売上高推移 (Million CNY)



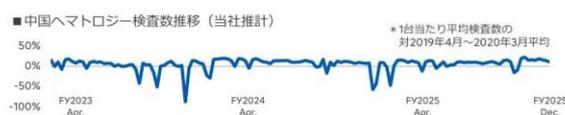
医療費抑制政策（必要最小限の原則など）の影響が拡大、代理店の経営悪化・買い控えによる在庫調整も拡大し、減収

### ● 機器

- ✓ 代理店の在庫調整などにより、減収
- ✓ 血液凝固分野はロックダウン生産効果により前年度下期から堅調に推移し、増収

### ● 試薬

- ✓ 必要最小限の原則の影響拡大により、特に血液凝固分野の検査数減少が大きく影響
- ✓ ヘマトロジー検査数の推移に大きな変化は無し



13

スライド 13 ページ、中国でございます。皆様よくご存知の政府主導による医療費抑制政策の影響ですね、こちらはやはり 3Q も継続しておるとともに、一部拡大しています。代理店の経営環境悪化に伴う在庫調整も影響しておりまして減収となっております。

機器につきましては、血液凝固分野における現地ロックダウン生産効果もありまして、堅調に推移しておりますが、全体としては、繰り返しですが在庫調整の影響が響いております。

それから試薬なんです、特にこれは血液凝固分野において D-Dimer を中心に必要最小限の原則の影響が拡大して検査数が減少したため減収となっております。なお下段右下に図で示しております通り、われわれのヘマトロジー機器の検査数に大きな変化は見られません。

## 中国における今後の見通し



前年同期比で4Qが最も落ち込む想定  
次年度以降は減少幅（前年同期比）が徐々に縮小し、下期には横ばいの水準



### 現状

- 必要最小限の原則の影響
  - 特に血液凝固分野 (D-Dimerなど) の減少幅が増加
- 代理店の在庫調整
  - 影響が継続中

### 見通し

- 4Q
- 必要最小限の原則: 血液凝固分野の減少幅が増加
  - 代理店の在庫調整: 機器の減少は想定範囲内  
試薬・消耗品は想定以上に減少

### 次年度

- 上期: 対前年マイナス影響が継続
- 下期: 前年同等水準を維持

2024年病院数と患者数の増減

	病院		外来患者	
	病院数	増減 (対2023年)	患者数 (千人)	伸長率 (対2023年)
3級	4,111	+256	28.7	9.1%
2級	12,294	+348	12.2	0%
1級	13,287	+35	2.5	0%

14

中国につきましてはもう少し詳細にご説明させていただきます。スライド 14 ページ、中国における今後の見通しでございます。対前年同期比で見ますと、今期第 4 四半期の落ち込みが最も大きくなるというふうに予想しております。これは現在拡大している必要最小限の原則の影響が中国全土に行き渡ることで、それからこれまで慣例だった第 4 四半期の売上増が今期は少し期待できないというふうに見ております。代理店の在庫調整を含めて、これらの市場環境変化による影響は、おそらく次年度上期までは対前年同期比でマイナスとして影響残りますが、下期からは横ばいの水準になるというふうに見ています。

一方、小さいですが右下にお示ししております通り、中国では高齢化に伴う患者数の増加に対応するため、実際に 3 級病院を中心に病院数やベッド数が増加しております。外来患者も 3 級病院は増加しておりまして、中国におけるヘルスケア需要そのものは今後も底堅く伸長が期待できると考えております。

数年前から本格的に始まった政府主導の医療費抑制政策ですね、こちらは他の先進国並みの医療環境を提供するために、ある意味中国における過去の商習慣を変えるために必要な政策であるというふうなわれわれは捉えております。したがって、今少し足元厳しいビジネス環境にはございますが、2027 年 3 月期を超えると新たな機会を捉えることができると考えておりまして、こちらは次期中期経営計画の中でも戦略ストーリーをきちんとお示したいというふうな考えております。

## AP (地域別)



(億円)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>393.8</b>	383.7	<b>102.6%</b> (104.1%)
ダイアグノスティクス事業	<b>392.6</b>	383.4	<b>102.4%</b>
機器	<b>74.5</b>	81.9	<b>91.1%</b>
試薬	<b>278.8</b>	259.1	<b>107.6%</b>
サービス・その他	<b>39.2</b>	42.7	<b>92.5%</b>
メディカルロボット事業	<b>1.2</b>	0.3	<b>336.1%</b>

インドでの大型入札案件の期ずれが発生するも、その他の国・地域が伸長し、増収

### ダイアグノスティクス事業

#### ● 機器

- ✓ インドネシアでの減収に加え、インドなどで大型案件の期ずれが発生し、減収
- ✓ 4Qは、予定されている大型入札案件獲得により、大幅伸長を見込む

#### ● 試薬

- ✓ マレーシアにおける血液凝固分野の大幅伸長に加え、ヘマトロジー、尿、免疫分野も好調に推移し、増収

### メディカルロボット事業

- ✓ 累計導入台数：4台
- ✓ シンガポール、マレーシアともに150症例以上実施されるなど、手術数は順調に増加



15

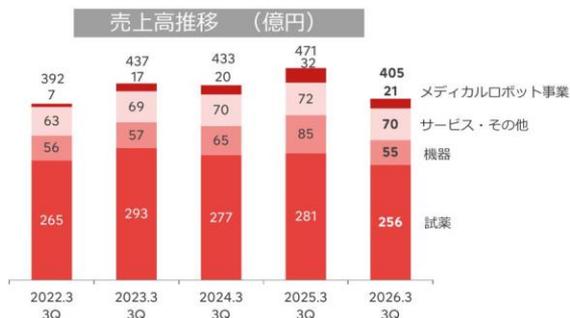
スライド 15 ページ、AP 地域になります。先ほども少し触れましたが、期待しておりましたインドでの大型入札案件、こちらの期ずれが発生してしまいましたが、その他の国、地域が伸長しており増収となりました。

なおインドでの大型案件ですが、実は複数ございまして、ヘマトロジー機器が少なくとも数百台、大きいものと 1,000 台を超えるような規模のものもございまして、4Q での販売実現に向けて進めているところでございます。試薬ではマレーシアにおける血液凝固分野、こちらで大幅に伸長したことに加えまして、その他分野も好調に推移し、増収となっております。メディカルロボットは 4 台ではございますが、着実に症例数を伸ばしており、消耗品等の売上に貢献しております。

## 日本（地域別）



(億円)	2026年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>405.0</b>	471.9	<b>85.8%</b>
ダイアグノスティクス事業	<b>383.1</b>	439.3	<b>87.2%</b>
機器	<b>55.8</b>	85.2	<b>65.6%</b>
試薬	<b>256.7</b>	281.9	<b>91.1%</b>
サービス・その他	<b>70.5</b>	72.1	<b>97.7%</b>
メディカルロボット事業	<b>21.9</b>	32.5	<b>67.4%</b>



前年度のヘマトロジー機器好調の反動や特殊要因の影響が残り、減収

### ダイアグノスティクス事業

#### ● 機器

- ✓ 前年度のヘマトロジー分野好調の反動により、減収
- ✓ 血液凝固分野のCN™-700、免疫分野のHISCL™-5000 ミッドスケールチェンジなど、新製品の市場導入を実施

#### ● 試薬

- ✓ 1Q特殊要因に加えCovid-19検査の減少などにより、減収
- ✓ 複数の新規免疫試薬項目を販売開始、今後の貢献を見込む

### メディカルロボット事業

- ✓ 病院の設備投資意欲が弱く新規設置台数は前年度を下回るも、累計稼働台数は96台（グローバル100台）と伸長
- ✓ 今期累計導入台数：10台（グローバル11台）

16

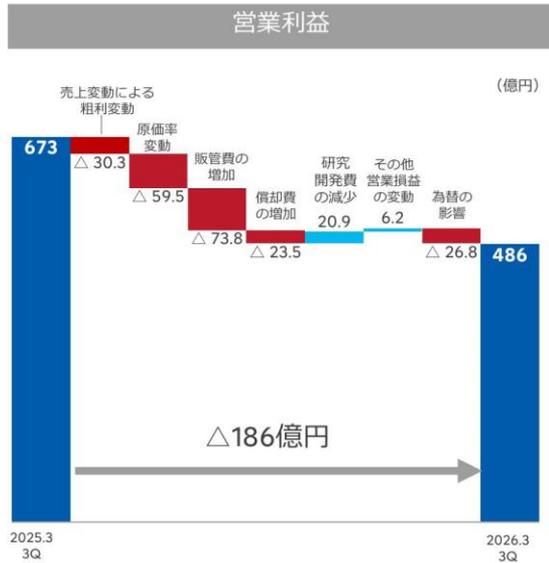
スライド 16 ページ、日本です。前年度のヘマトロジー機器買い替え好調の反動ですとか、それから1Qでの特殊要因、こういったこともあり減収となっております。一方新製品のCN-700、それからHISCLのミッドスケールチェンジ、それから敗血症関連試薬項目のプロカルシトニンなどにより今後の売上貢献というのを見込んでおります。

メディカルロボット事業は、ご案内の通り国内の医療環境における財政状況が厳しい影響を受けておりますが、今後の追加補助金等による効果なども期待しております。現在、国内の稼働台数が96台、グローバルでは100台に到達し、症例数も着実に伸長しております。

## 営業利益の増減要因（対前年）



※下記数値・コメントは為替の影響を除く



- 売上変動による粗利変動：△30.3億円
- 原価率変動による影響：△59.5億円（1.6pt悪化）
  - ✓ 改善要因：ロジコストの改善 0.1pt
  - ✓ 悪化要因：プロダクトミックスの影響 0.5pt  
1Q 発生の棚卸資産の評価額見直し影響 0.5pt  
サービスコストの悪化 0.5pt、関税の影響 0.3pt
- 販売管理費の増加：△73.8億円
  - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：△31億円
  - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：△25億円
- 償却費の増加：△23.5億円
- 研究開発費の減少：20.9億円
  - ✓ 製品開発への投資継続も、研究開発テーマの精査などにより減少
- その他営業損益の変動：6.2億円
- 為替の影響：△26.8億円

17

スライドの 17 ページ、営業利益の増減要因でございます。売上減少による粗利変動、それから原価率の変動が想定よりも大きくございまして、販管費、償却費、研究開発費、こういったところについてはコントロールいたしましたが、大幅な減益になっております。先ほども申し上げましたが、為替の影響は 26.8 億円のマイナスでございます。

## 3つの成長戦略：既存事業の強化（血液凝固分野）



強固なヘマトロジー基盤と新製品の投入により  
価値提供領域を拡げ、顧客満足の上と収益成長を加速させる

### ● ブランドカを活かした市場展開を加速

EMEA：ドイツなどで大型案件を獲得



全自動血液凝固測定装置 CNシリーズ



● 大型・新規案件獲得した主な国

### ● 上位市場でのプレゼンス向上

- ✓ タッチフリーコンセプトを血液凝固分野へ展開

北米：CN-9000の発売開始



CN™-9000 Automated Hemostasis Solution

### ● 中下位市場での競争優位性を拡充

- ✓ 上位機種のパフォーマンスをコンパクトに踏襲
- ✓ 新興国での市場導入も視野

日本：CN-700の発売開始



全自動血液凝固測定装置 CN-700

19

スライド 19 ページ、三つの成長戦略のうち、既存事業の強化に関して、まず血液凝固分野の展開についてご紹介いたします。

EMEA 地域はヘマトロジー分野で培ったブランドカをフルに生かし、先ほどもお話ししましたがドイツなどで大型案件の獲得が続いています。北米でも FDA の認可を取得し、ヘマトロジー分野の XR シリーズに搭載したタッチフリーコンセプトを血液凝固分野でも実現した CN-9000 を発売するなど、今後の拡大が期待できます。

それから上位機種のパフォーマンスをコンパクトに踏襲した CN-700、右下に写真を掲載しておりますが、こちらは日本で発売開始いたしました。今後は、この CN-700 もグローバルにおける中下位市場や新興国での展開を期待しております。当然ですが血液凝固機器の設置拡大に伴いまして試薬売りも増加することで、収益改善も期待できるというふうに考えております。

## 3つの成長戦略：既存事業の強化（免疫分野）



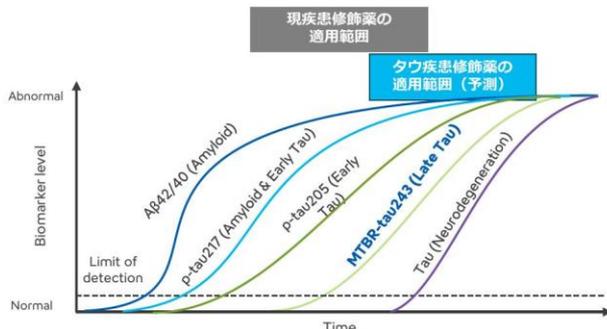
アルツハイマー病検査におけるプレゼンスの向上と市場浸透により成長拡大を目指す

### ● 国際学会でのMTBR-tau243発表

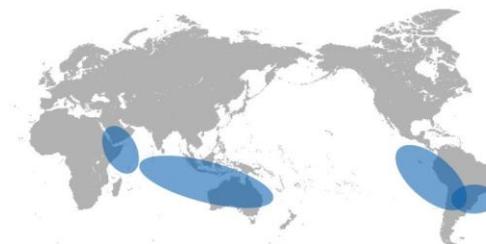
- ✓ 血液を検体とした、イムノアッセイ法での発表は世界初
- ✓ タウ疾患修飾薬の創薬パートナーからの期待

### ● 早期市場参入による市場優位性の向上

- 富士レビオHD社との販売協業を開始
- ✓ 富士レビオHD社の豊富なラインナップ
- ✓ シスメックスのグローバルな販売ネットワーク
- ✓ KOLとの連携強化やガイドライン策定への参画



抗アミロイド疾患修飾薬に加え、抗タウ疾患治療薬の登場を見据えた血液検査の開発を推進



※対象国：ブラジル、中南米、中東、アジアから

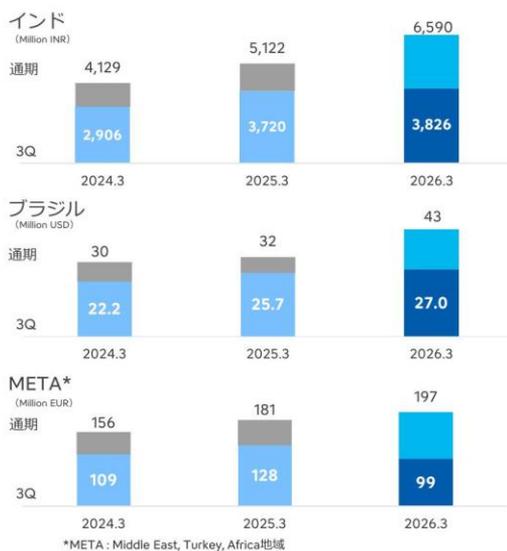
先進国におけるHISCLシリーズの展開に加え、グローバル展開の推進を狙う

20

スライド 20 ページ、免疫分野についてのご紹介になります。左側にございます通り、昨年 12 月 1 日から 12 月 4 日に米国サンディエゴで開催されました第 18 回アルツハイマー病臨床試験会議、いわゆる CTAD、こちらで発表された内容を少し掲載させていただきました。血液を検体としたイムノアッセイ法による MTBR-tau243 の発表は世界初ということで、タウ疾患修飾薬の創薬パートナーからも期待が寄せられております。われわれは現在の疾患修飾薬に対応するといわれているアミロイドβや p-tau217 に加えまして、こういったタウ疾患修飾薬へ対応すると考えられる p-tau205 や今回の MTBR-tau243 の開発を進めております。

一方で右側にございます通り、先に富士レビオ社との販売協業を発表させていただきました。こちらは豊富なラインアップを揃えておられます富士レビオ社の強みと、われわれシスメックスのグローバルネットワークですね、こういった両社の強みを活かしまして、まずはブラジルから中南米、中東へと販売エリアを広げていく計画でございます。市場への早期参入、KOL との連携強化、ガイドライン策定などへの参画を狙います。先進国における HISCL シリーズの展開に加えまして、富士レビオ社との協業によってグローバル展開の推進を狙うものであります。

## 3つの成長戦略：新興国戦略



### 新興国における競争優位性の発揮

- **インド：政府調達案件への対応推進**
  - ✓ 新生産拠点にて、Make in India Class I を達成  
さらに、欧州規制IVDD CEマークを取得
- **ブラジル：長年の「高い顧客満足度」が築いた揺るぎない信頼**
  - ✓ ブラジル大規模の検査センターにて、競合の低価格戦略を退け、リテンションに成功
- **マレーシア：機器更新に留まらず、ラボ全体の課題解決を提案**
  - ✓ 他社が最重要顧客として位置づけるリファレンスラボにて、当社の採用が決定



インド市場向け  
多項目自動血球計数装置 XQ™-320



多項目自動血球分析装置 XRシリーズ

XRシリーズの  
複数システム導入確定



スライド 21、新興国戦略の進捗です。インドは先ほどご説明した通りですが、3Q 累計では着実に伸長しております。また今期から、ご覧の通り稼働開始しております現地機器生産工場ですが、こちらで生産しておりますヘマトロジー機器も現地生産ガイドラインに適合し Class I、つまり現地比率 50%以上を達成しております。また IVDD、IVD Directive による CE マークも取得できまして政府調達案件への販売拡大が期待できます。

ブラジルではトップ 5 に入る大規模検査センターの更新案件にて競合が低価格戦略をかなり仕掛けておりましたけれども、われわれリテンションに成功しています。これにつきましては、ハイエンドの市場では、やはり当社のブランド力の高さを示しているんじゃないかということで、その例だと考えております。

それからマレーシアも、他社が重要顧客と位置づけているリファレンスラボの更新案件を当社が獲得しております。具体的にはペナン州の 6 施設でございますが、年間約 1 億円超の売上規模の施設になります。機器更新にとどまらず、検査室全体の省力化や、それから生産性向上に寄与するわれわれの課題解決提案が決め手となっております。

### 3つの成長戦略：新規事業の拡大（メディカルロボット事業）



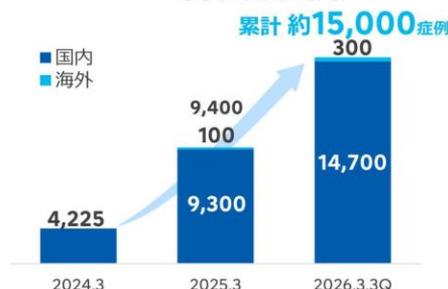
累計設置100台を通過点とし、さらなる市場浸透と症例数増を加速

- ✓ 日本：柔軟な販売スキーム展開と大学病院機能強化事業の補助金を追い風に、更なる普及を目指す
- ✓ AP：拡大するアジア市場での症例増を背景に、今後の参入国の選定と導入体制整備を推進
- ✓ 欧州：薬事認可取得を前提に、最適な市場参入モデルの構築を推進

hinotori™グローバル累積台数推移



累積症例数の推移



22

スライド 22、メディカルロボット事業でございます。繰り返しですけれども日本では少し厳しい環境になっておりますが、病院の投資意欲が低下している状況が続いております。一方、実際の医療の現場ではやはりこの手術支援ロボットに対するニーズというのは非常に底堅く、われわれといたしましても柔軟な販売スキームの展開や、それから大学機能強化の補助金等がございますので、そういった追い風を武器に今後更なる普及を目指してまいりたいと考えております。

アジアパシフィック地域では、拡大するアジア市場での症例増を背景に、今後の参入国の選定や導入体制の整備を進めております。またヨーロッパ、欧州で現在薬事申請中ではございますが、欧州における最適な市場導入モデルの構築を現在推進しております。

## 2026年3月期 通期業績予想修正



緑字：予想（2025年11月）からの変更箇所

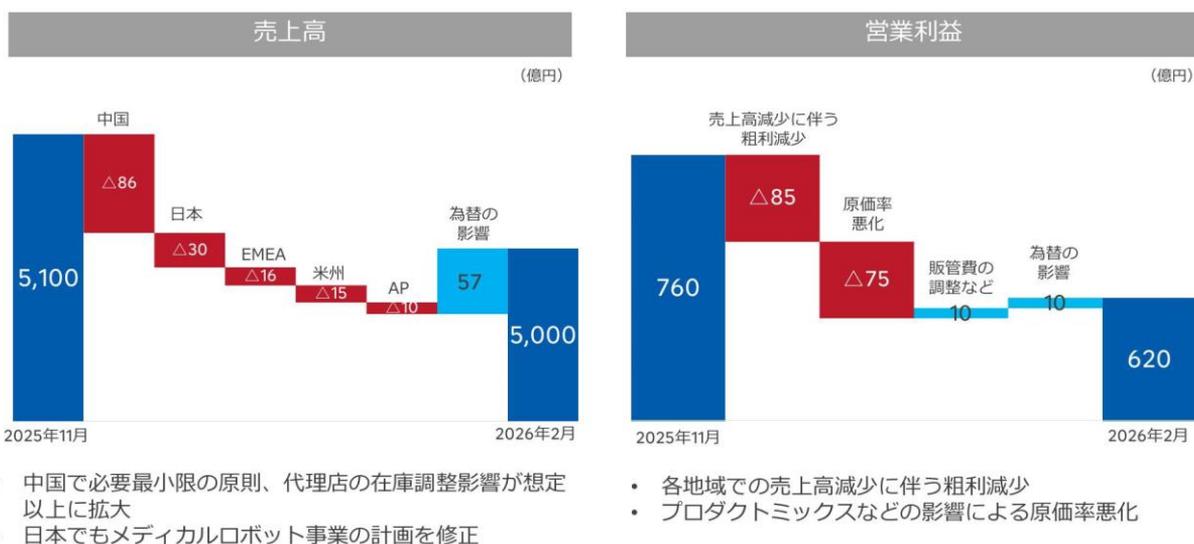
### 売上高・営業利益・当期利益\*を下方修正

(億円)	2026年3月期 第3四半期累計 (4月-12月)			2026年3月期 通期 (4月-3月)		2026年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	対11月 予想 進捗率	11月 予想	構成比	2月 修正予想	構成比	対前年	対11月 予想
売上高	3,611.6	100%	70.8%	5,100	100.0%	5,000	100.0%	98.3%	△100
売上原価	1,735.3	48.0%	-	2,415	47.4%	2,440	48.8%	103.1%	+25
販売費及び 一般管理費	1,202.0	33.3%	-	1,635	32.1%	1,650	33.0%	109.4%	+15
研究開発費	204.4	5.7%	-	300	5.9%	300	6.0%	95.4%	-
その他営業損益	16.7	0.5%	-	10	-	10	0.2%	-	-
営業利益	486.5	13.5%	64.0%	760	14.9%	620	12.4%	70.8%	△140
親会社の所有者 に帰属する当期 利益	336.9	9.3%	74.9%	450	8.8%	410	8.2%	76.4%	△40
投資計画	設備投資 500億円		減価償却費 450億円	ROE		8.5%			
● 想定為替レート	通期 (2025年11月修正)	通期 (2026年2月修正)	4Q単 (2026年2月修正)	● 為替感応度の概算値 (4Q単四半期)					
1 USD	148.5円	150.0円	154.0円	売上	USD	2.2億円	営業利益	0.3億円	
1 EUR	171.5円	174.6円	183.0円	EUR	1.8億円	0.1億円			
1 CNY	20.8円	21.1円	22.0円	CNY*	0.9億円	0.5億円			

24

スライド 24 ページ、通期業績予測でございます。こちらエグゼクティブサマリーでもお話をさせていただきましたが、2026年3月期予想を売上高 5,000 億円、営業利益 620 億円、当期利益 410 億円へ修正いたします。

## 2026年3月期 通期業績予想修正 変動要因



25

スライド 25 ページです。売上高は、中国での必要最小限の原則、代理店在庫調整の影響を大きく見込んだ結果 86 億円の通期でマイナス、それから日本でのメディカルロボット事業も計画修正しまして 30

億円のマイナス、またその他地域においても現状を加味してリスクを最大限織り込み、最終的には為替のプラス効果はあるものの、トータル 100 億円のマイナスといたしました。

あと営業利益ですね、こちらは各地域における売上減少に伴う粗利減少が 85 億円、ここが一番大きいわけですが、それに加えてまして試薬売上構成比の低下、いわゆるプロダクトミックスなどの原価率悪化影響を 75 億円見込みまして、トータル 140 億円のマイナスとさせていただきます。

先ほども少し述べさせていただきましたが、中国に関しましては対前年同期比で見ますと、第 4 四半期の落ち込みが最も大きくなると想定をしています。代理店の在庫調整を含めた市場環境変化による影響は、次年度上期までは対前年同期比でマイナス影響が残りますが、下期からは横ばい水準、その後は回復というふうに見ております。

## 2026年3月期 四半期推移実績・予想

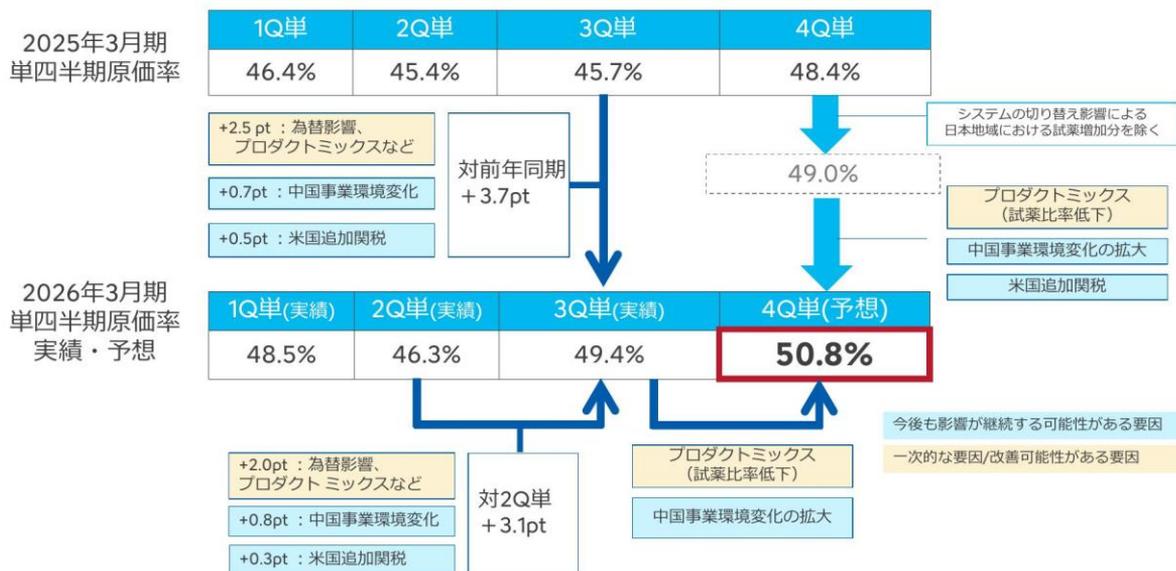


(億円)	2026年3月期1Q (4月-6月)		2026年3月期2Q (7月-9月)		2026年3月期3Q (10月-12月)		2026年3月期4Q (1月-3月)	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	予想	構成比
売上高	1,057.3	100%	1,267.9	100%	1,286.4	100%	1,388	100%
売上原価	512.6	48.5%	587.0	46.3%	635.6	49.4%	704	50.8%
販売費及び 一般管理費	382.9	36.2%	395.7	31.2%	423.3	32.9%	447	32.3%
研究開発費	64.0	6.1%	67.9	5.4%	72.4	5.6%	95	6.9%
その他の営業損益	8.6	0.8%	6.0	0.5%	1.9	0.2%	△7	—
営業利益	106.2	10.1%	223.2	17.6%	156.9	12.2%	133	9.6%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	45.5	4.3%	144.6	11.4%	148.5	11.5%	73	5.3%

26

スライド 26 ページ、第 1 四半期から第 3 四半期までの実績推移と、通期修正計画に基づいた第 4 四半期の予想となっております。特に売上原価の影響が見てとれますので、次のスライドで原価についてご説明いたします。

## 四半期ごとの原価率



27

スライド 27 です。今期の 3Q 単における原価率は 49.4% ということで、これは対前年から 3.7 ポイント、それから 2Q からは 3.1 ポイントの悪化ということでございます。こちらの要因といたしましては為替の影響、プロダクトミックスの変化、それから今期に関しましては中国の影響と米国の追加関税の影響を受けております。

これを基にいたしまして 4Q 単における原価率予想は 50.8% としております。これは対前年から 2.4 ポイント、3Q からは 1.4 ポイントの悪化にはなりますが、4Q 単は従来から機器売上構成比が上昇し、他の四半期に比べて原価率が高めになる傾向がございます。また、中国における影響ですね、こういったものも含めまして悪化を想定しております。

## 参考 | 2026年3月期業績予想（事業・分野別・地域別売上高）

事業・分野別売上高 (億円)			地域別売上高 (億円)		
	2026年3月期	前年同期比		2026年3月期	前年同期比
ヘマトロジー分野	2,995	98.8%	米州	1,390	106.0%
FCM分野	50	137.4%	EMEA	1,615	115.0%
尿分野	465	113.9%	中国	860	72.9%
血液凝固分野	720	87.4%	アジア・パシフィック	555	108.1%
免疫分野	215	83.1%	日本	580	85.6%
生化学分野	30	82.6%			
ライフサイエンス	245	114.9%			
その他	245	109.3%			
ダイアグノスティクス事業	4,965	98.7%			
メディカルロボット事業	35	65.2%			
合計	5,000	98.3%			

緑字：変更箇所

28

スライド 28、こちらは参考でございますが、業績予想の事業別・分野別・地域別の売上高ですので参照ください。特に米州、EMEA、それから AP 地域では非常に好調に推移する想定でございます。

## 次期中期経営計画のポイント

- 既存事業の成長持続に拘る
  - 新たなソリューションを載せたフラッグシップのグローバル展開
- シスメックスの「強み」を活かしたデジタルトランスフォーメーションの加速
  - ヘルスケアジャーニーの質と顧客価値を高めるソリューション開発のチャレンジ
  - 企業活動の効率性・生産性を次のステージへ変革する
- 中国の事業環境変化など世界の地政学および経済安全保障リスクを前提とした経営へ
- グループ収益を意識した事業ポートフォリオと製品パイプラインのマネジメント強化
- 次の成長ステージを担う次世代人材の育成と獲得
- 資本効率の改善、自己株式取得を含めた株主還元の拡充

30

スライド 30 ページ、最後ですが、次期中期経営計画のポイントというスライドを 1 枚作らせていただきました。ご覧の通り、現在、来年度からスタートする次期中期経営計画を策定しておるところござ

います。来月3月には、皆様に中計の骨子についてご説明させていただく予定にしておりますが、本日はポイントを少しだけこのようにお示しさせていただきました。

ヘルスケア産業を取り巻く環境変化のスピードが本当にますます高まっております。地政学的リスクや経済安全保障に関わる問題など、経営環境は不確実性や不透明感が高まっております。しかしながら、こういった環境変化に伴う新たなニーズを確実に捉えることができれば、新たな市場を開拓できるチャンスも同時に高まっていると考えております。

検査を中心とした医療環境のデジタルトランスフォーメーションを進め、データとAIを軸とするデジタル戦略で、医療の現場や、さらには社会全体が抱える切実な問題の解決と、それから当社の成長深化を両立させるストーリーを描きたいということでございます。それぞれの市場ニーズに合致したフラグシップとなる新製品を中計期間中にタイムリーにお届けすることで、シスメックスに対するお客様の期待にお応えしたいと考えております。

それから今中計でも、主にライフサイエンスにおいてピボットを進めてまいりましたが、こちらは次期中計でも継続し、特に成長性と収益性の両面から事業ポートフォリオの入れ替えも進めてまいりたいと考えております。

それから、資本効率の改善もテーマということで考えております。投資の優先順位をしっかりと明確にした上で、余剰資本の活用方法として配当や自己株取得を含む資本政策についても整理する予定でございます。自己株取得につきましては、資本効率や株主価値向上に資する手段として前向きに検討しており、来月の次期中計発表の中でその考え方も含めてお示ししたいと考えております。

本日のご説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

以上